

国立感染症研究所村山庁舎BSL4施設見学会について
(5月16日、30日)

1. 本日のスケジュールについて

時 間	第1グループ (赤バッチを付けている方)	第2グループ (青バッチを付けている方)
10:00~10:10	施設見学会に関する説明 (会議室)	
10:10~10:50	BSL4施設見学 (8号棟)	施設等の説明 (会議室)
10:50~11:00	会場の移動 (休憩)	
11:00~11:40	施設等の説明 (会議室)	BSL4施設見学 (8号棟)
11:40~12:00	質疑応答 (会議室)	

2. 留意事項について

BSL4施設見学会に当たり、次の事項にご留意ください。

- ①庁舎内では指定した場所以外の立ち入りはご遠慮ください。
- ②写真撮影、ビデオ撮影、録音はご遠慮ください。
- ③施設内での喫煙はできません。
- ④途中でお帰りになる方はバッチを警備員又は職員へお渡しください。
- ⑤アンケートにご協力願います。
なお、記入した用紙はお手数ですが、お帰りの際に回収箱に入れてください。
- ⑥その他、職員の指示に従ってください。

BSL4 施設見学会（5 / 16）アンケート結果

1. 参加者について

参加者 36名、アンケート提出者 27名（回答率75%）

2. アンケート結果について

(1) BSL4 施設説明の内容について

項目	件数	割合
①とても難しい	1	4%
②難しい	8	31%
③適切	17	65%
④易しい	0	0%
⑤とても易しい	0	0%
合計	26	100%

(2) BSL4 施設説明の時間について

項目	件数	割合
①とても長い	0	0%
②長い	2	7%
③適切	22	81%
④短い	3	11%
⑤とても短い	0	0%
合計	27	100%

(3) BSL4 施設見学の時間について

項目	件数	割合
①とても長い	0	0%
②長い	0	0%
③適切	18	69%
④短い	8	31%
⑤とても短い	0	0%
合計	26	100%

(4) 説明者の話し方について

項目	件数	割合
①大変聞き取りやすい	1	4%
②聞き取りやすい	17	63%
③適切	6	22%
④聞き取りにくい	3	11%
⑤非常に聞き取りにくい	0	0%
合計	27	100%

(5) その他（回答者20名）

①エボラ出血熱で、国立感染症研究所が注目を集め、今回施設を見学することが出来て良かったです。

②最初は怖かったけれど、安全なことが分かって良かったです。見学をして、厳重に管理していることが分かったので安全だと言うことが分かった。学校のすぐ近くにあり、気になっていた建物だったので見学が出来て良かった。

③初歩的ではありますが、どの様に感染するものなのか、その病原菌（ウイルス）は、どのような状況で増え、どのような状況だと死滅するのか、どの程度の感染力があるのかが良くわかったのでひと安心しました。

④誠意のある説明を受けて大変良かったと思う。施設の厳重な状態を見学してとても安心した。

⑤安全面に留意して研究されている施設ということが良くわかりました。感染についての対応等の研究成果を今後も期待しています。今後も情報公開をしていただき、地域の方々の理解のもと国民を感染から守って下さい。

⑥研究員の外室時のチェックの説明がよくわかった。

⑦昨年はエボラ騒ぎで厚労大臣も来庁され、報道も大変でした。私は、村山に来て20年以上になりますが、余り詳しくは知りませんでした。賛否はある施設だとは思いますが、これからも予想される感染症に対し、万全を尽くし、検査、予防を強く要望いたします。市民の誇りになりますように。

⑧今回初めて見学をしました。近くにあっても、中に入る事がないのですが、参加して、見学をして良かったと思います。質問に対しても丁寧な受け答えでした。気持的に近くにこの施設があってもそれ程敏感になることはないように感じました。

- ⑨安全であることに安心した。
- ⑩安全性について万全を期し、運用をお願い致します。
- ⑪市民としては、安全ならばしっかり稼働させるべきだと思っているので、安全神話にとらわれず、しっかり管理・運営して欲しい。信頼を積み重ねて市民の信頼を勝ち取ってほしいです。
- ⑫BSL4施設の必要性は理解出来たが、耐久性、安全性、非常時対応の検討及び対策が必要と感じました。
- ⑬もう少しゆっくり話してほしい。一部質問者のやり取りは、「見学会」という中では、相応しくない。別の機会を設けるべき。
- ⑭改修が10年前に行われたことで、現在の建物の状態が万全であるかという点で、不安が残る話だったので、数字的な面、想定のある面でも厳しい目で対策を行ってほしいと思いました。
- ⑮排気口の検査を行い、その結果を教えていただけたらありがたいです。
- ⑯100%安全な対策など有り得ない！という安全に対する考えでいてほしい。
- ⑰万が一の時の対応が見えない。
- ⑱BSL4施設の設置場所として、この場所は不適切です。所員の方々も実は気づいているはず。住民と一緒に国に新しい場所への移転を働きかけませんか。
- ⑲住宅地での施設運営には無理があり反対です。外国の例を示されていますが、最善ではないはず。日本学術会議の提言に対し、対応するつもりはあるのでしょうか？BSL4は危険であるという前提で検討しない限り解決方法は無いと思います。エボラ出血熱の検体をパトカー先導で車で移動することは好ましくない。車で移動しない仕組みを抜本的に考えるべき。（隔離施設と近接した検査施設が条件）
- ⑳外国の写真を含めて、安全を強調するのはいかなるものか。なぜ、住民に文句を言われるような場所で良いと考えているのか。将来のために早く適地を探すべきだと思う。安全を考えて作られているが、万全とはいえないと感じた。住民感情は、理屈で安全という部分とは違うので、人間の怖いという感情にも敏感であるべき。

BSL4施設見学会（5／30）アンケート結果

1. 参加者について

参加者 30名、アンケート提出者 21名（回答率70%）

2. アンケート結果について

(1) BSL4施設説明の内容について

項目	件数	割合
①とても難しい	1	5%
②難しい	5	24%
③適切	15	71%
④易しい	0	0%
⑤とても易しい	0	0%
合計	21	100%

(2) BSL4施設説明の時間について

項目	件数	割合
①とても長い	0	0%
②長い	0	0%
③適切	17	81%
④短い	4	19%
⑤とても短い	0	0%
合計	21	100%

(3) BSL4施設見学の時間について

項目	件数	割合
①とても長い	0	0%
②長い	0	0%
③適切	16	76%
④短い	5	24%
⑤とても短い	0	0%
合計	21	100%

(4) 説明者の話し方について

項目	件数	割合
①大変聞き取りやすい	4	19%
②聞き取りやすい	7	33%
③適切	10	48%
④聞き取りにくい	0	0%
⑤非常に聞き取りにくい	0	0%
合計	21	100%

(5) その他（回答者14名）

①いろいろな説明で良く理解でき安心しました。

②施設見学の際、小さなグループで入れ替えがたくさんあり、説明が最初から聞けなかったりしたので、1つのグループに一環した説明者が1人着いてくれる方が良かったと思います。TVで有名になるまで知らなかったのが、今日、内容を含めて知ることが出来て良かったです。難しいウイルスに対して、無知の素人は専門家の方を信じてお任せする事しか出来ません。大切な施設ですので、市民の方から色々言われるかもしれませんが、それは行政が対応することだと思うので、ここで働かれています方には、感謝の言葉しかありません。私も風評被害に成らない様に正しい情報を伝えたいと思います。村山が誇りを持って感染研の存在を考えられる様にしていきたいと思います。今日はありがとうございました。

③BSL4施設で扱っている菌について身体にふれなければ感染しないということが理解出来ました。

④見学会に初めて参加致しました。施設について色々わかり、知ることが出来良かったです。ありがとうございました。

⑤これからも見学出来ると良いです。（次回も見学会を希望します。）今日は忙しい仕事の中対応していただき大変ありがとうございました。（所長始め、各人）

⑥ありがとうございました。今後供がんばって下さい。

⑦とても大切な事なのですが心して行こうと思います。これからも考えて行く事が多くなりました。

⑧こうした施設があること自体知りませんでした。もっとPRしたらどうでしょうか。少しでも不安が除けるかと思います。

⑨見学会をして、地域住民へ安全性や必要性をアピールすることを目的とするならば5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底して、イメージUPした方がよろしいのでは？特に草刈をして、施設を含め、しっかり管理していますみたいな感じだと一般の方々は、安心感が上がると思います。

B S L 4施設の中も、物が雑然と置いてあり、整理し、地震や火災が起きても大事に至らないようにした方が良いでしょう。

今日は、ありがとうございました。これからも国民のためにがんばって下さい。

⑩分からない、不安でした。今日の施設見学会で理解を深めることが出来たと思います。今後も関心をもって勉強をして行きたいと思います。ありがとうございました。

⑪市報等で、この研究所の施設や仕事内容の情報をわかりやすく流していただけると、もう少し市民の理解が得られるのではないのでしょうか。私もよく知らなかったのです。

⑫その他の設備では何の研究をしているかの説明位してほしかった。

⑬現場における設備に関する説明をもう少し詳しくしてほしい。（目的、機能、動き、構造等）

⑭B S L 4を稼働させたいのですか？万が一、陽性が出たら、その後の事が、良く分かっていないとの事ですが、住民への対応はどうするのですか？

国立感染症研究所村山庁舎BSL4施設見学会（参考資料）

第二回村山庁舎施設運営連絡協議会資料

「国立感染症研究所村山庁舎に関しこれまでにいただいたご質問について」から抜粋

質問1 近隣にウイルスを取り扱うBSL4施設があると、感染しないか心配です。

質問2 エボラウイルス等が、外部に漏れる危険性はないですか？

質問3 震度6強以上の大地震動による災害が生じたら、建物が倒壊してウイルスが外部に漏れる恐れはありませんか？

質問4 エボラウイルスを取り扱う職員が感染し、周辺住民にも二次感染する恐れはないのですか。
万一、職員が感染した場合、どのような対応を行うのですか？

質問5 感染研施設が、犯罪やテロの標的となる可能性があるのではないですか？

質問6 万一火災や地震などによる事故が発生した場合、感染研から周辺の住民に対して、どのようにして迅速に連絡するのですか？

質問7 BSL4施設は、人家から遠く離れた場所に設置するべきではないですか？

質問8 感染研のBSL施設はなぜ必要なのですか？

質問9 これまで発生したエボラ出血熱の疑い例の検査はBSL3施設で実施できたようですが、感染した患者の検査のためだけならBSL4施設は不要なのではないですか？

質問10 感染研において実施している試験研究の内容や安全性について、周辺住民に対して説明してもらえませんか？

質問1 近隣にウイルスを取り扱うBSL4施設があると、感染しないか心配です。

- ① BSL4施設で取り扱うウイルスは極めて微量で、厳重に保管されるため、通常、施設外の環境中にエボラウイルスが漏れることはありません。
- ② また、BSL4施設で取り扱うウイルスは、培地と呼ばれる液体の中に存在し、粉末状や霧状（エアロゾル）では存在しませんし、感染経路についても、ヒトとヒトとの接触による感染であり、空気感染・飛沫感染は起こりません。
- ③ さらに、外気中では短時間で死滅しますので、BSL4施設からウイルスが飛散して感染することはありません。

質問2 エボラウイルス等が、外部に漏れる危険性はないですか？

- ① ウイルス及び感染させた動物はBSL4施設内の密閉されたグローブボックス内でのみ取り扱われます。

- ② グローブボックスの外にウイルス等が漏れない仕組みになっています。
- グローブボックス内の空気を含む BSL4 施設内空気は、必ず高性能フィルター（HEPA フィルター）を二重に通してから排気されます。ウイルスが排気に含まれることはありません。
 - BSL4 施設で生ずる廃液は、高圧蒸気滅菌および薬物滅菌処理されます。
 - ウイルスは培地と呼ばれる液中に存在し、空気中に飛散することはありません。
- ③ 感染研 BSL4 施設は定期的に点検されます。

質問3 震度6強以上の大地震動による災害が生じたら、建物が倒壊してウイルスが外部に漏れる恐れはありませんか？

- ① BSL4 施設のある8号棟は、震度6強から7に達する程度の大地震動が発生しても国土交通省が示す施設の耐震性能において「構造体の補修をすることなく建築物を使用できる」水準となっています。
- ② このため、建物が倒壊することによりウイルスが建物の外部に漏れる恐れはないと考えています。
- ③ なお、その他の災害も含め、万一ウイルスが建物の外部に漏れたとしても、質問1で説明しているとおり、ヒトに感染する恐れはありません。

質問4 エボラウイルスを取り扱う職員が感染し、周辺住民にも二次感染する恐れはないのですか。万一、職員が感染した場合、どのような対応を行うのですか？

- ① 担当職員は、感染事故を起こさないように十分なウイルス取扱いの訓練・教育を行っています。
- ② さらに、ウイルスを取扱っている期間は、体温測定等担当職員の健康管理を厳重に行います。
- ③ BSL4 施設で取り扱うエボラウイルス等は、接触感染以外でヒトに感染することはありません。万一職員が針刺し事故等により感染したとしても、発熱など症状がでるまでの数日間はヒトに感染させることはないことから、周辺住民の皆さんに二次感染させることはありません。
- ④ 万一針刺し事故等により職員の感染が疑われる場合には、すぐに国立国際医療研究センター（新宿区）に搬送し、適切に治療がなされます。

質問5 感染研施設が、犯罪やテロの標的となる可能性があるのではないですか？

- ① これまで感染研がテロの標的となったことはありませんが、村山庁舎では、警備員の常駐や監視カメラ等による警戒を行うほか、警察等と連携した警備体制をとっています。
- ② さらに、平成26年度の補正予算により、監視カメラの増設等のセキュリティ強化を図ることとしており、今後とも、更なる警備体制の強化に努めてまいります。

質問6 万一火災や地震などによる事故が発生した場合、感染研から周辺の住民に対して、どのようにして迅速に連絡するのですか？

- ① ウイルスは熱、日光、紫外線等に弱く、外気中では短時間で死滅しますので、通常、周辺の住民の皆様には避難をお願いするような事態になることは想定されません。
- ② ただし、火災などの事故が発生した場合には、周辺住民の皆様には状況をお伝えする事態も想定されますので、市役所や本協議会の皆様とも相談しながら、迅速に連絡する方法について検討してまいります。
- ③ なお、火災や地震に備えた施設の安全管理については、迅速に対応できるように規程等を定めており、警備員等が夜間を含め常駐し、災害時における緊急情報伝達網も整備しています。

質問7 BSL4 施設は、人家から遠く離れた場所に設置するべきではないですか？

- ① BSL4 施設は、ウイルスを厳重に封じ込める安全対策を講じた施設ですので、人家から遠く離れた場所に設置する必要はありません。
- ② また、BSL4 施設には、患者の診断・治療への迅速な対応が求められるのに加え、研究者や施設管理等のための人員確保が必要なことから、その立地にはアクセスの良さも求められます。

質問8 感染研の BSL 施設はなぜ必要なのですか？

- ① 日本国内でエボラ出血熱の患者が発生した場合、適切な治療を行うために様々な情報を収集する必要があります。
 - ◆ 患者におけるウイルス量推移の検査（治療効果の判定）
 - ◆ ウイルスの遺伝子情報を含むウイルスの性状の解析
 - ✓ ウイルスの種類の特定
 - ✓ 感染経路の特定
 - ✓ 変異の有無の確認 など
 - ◆ 患者の血液中の抗体価（治癒の目安）の測定
 - ◆ 患者からのウイルス排出の有無の確認（退院の決定）
- ② これらの検査を実施するためには、患者の血液からウイルスを分離する（取り出す）ことが必要です。
- ③ 一人目に続いて複数の国内患者が発生する場合に備えた準備が必要です。
 - ◆ 治療候補薬の効果測定
 - ◆ 治癒した患者の血液に含まれる抗体を利用した治療法（血清療法）の検討・準備
 - ◆ 分離されたウイルスを用いた、検査法の改良（迅速診断キットの開発など）
- ④ 診断・治療・予防法の確立を目指した研究が必要です。

- ◆ 治療候補薬やワクチンの開発
- ◆ 動物実験による治療候補薬やワクチンの効果と副作用の 評価
- ◆ 動物実験による病気の発症や重症化のメカニズムの解明

質問9 これまで発生したエボラ出血熱の疑い例の検査はBSL3施設で実施できたようですが、感染した患者の検査のためだけならBSL4施設は不要なのではないですか？

- ① BSL3施設において実施可能な検査法は限られており、エボラ出血熱の患者であるかどうかの判定には有効ですが、感染が確定した患者の治療や退院判断のために必要な、より詳細な情報の把握には対応できません。
- ② 感染した患者の治療や退院判断のためには、ウイルスそのものを検査することが必要であり、このような検査はBSL4施設でなければ実施できません。
- ③ また、感染が確認された患者の血液等は、BSL4施設で取り扱うことが、安全対策のためには最善の方法です。

質問10 感染研において実施している試験研究の内容や安全性について、周辺住民に対して説明してもらえませんか？

- ① 感染研の活動や安全対策について、周辺住民の皆さんのご理解をいただくことは大変重要なことと考えています。
- ② これまでも、平成19年度から、感染研市民公開セミナーやBSL4施設見学会を行ってきましたが、BSL4施設の必要性や安全性については、十分に説明の機会を設けることができませんでした。
- ③ このため、平成27年1月から国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会を開催したところであり、今後、試験研究内容、安全管理状況等についても、本協議会などを通じて説明させていただきます。
- ④ 周辺の住民の皆様に対して開かれた研究所であるために、より一層情報公開と皆様への説明に努めてまいります。

「国立感染症研究所村山庁舎に関し新たにいただいたご質問について」より抜粋

- 質問 1 昭和 56 年に BSL4 施設が建設された当時、施設の内容について住民への説明がなかったのはなぜですか。これまで 30 年以上の間、どのような経過だったのでしょうか？
- 質問 2 WHO の文書（1997 年）では、BSL4 施設は住宅地に隣接してはならないとされているのではないのですか？
- 質問 3 諸外国の BSL4 施設で、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの拡散などの事故は発生したことはありますか？
- 質問 4 国立感染症研究所では、過去、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの施設外への漏えいなどの事故が発生したことはありますか？
- 質問 5 遺伝子組換えなどにより、ウイルスが想像もできない危険なものに変異する可能性があるのではないのですか？
- 質問 6 放射線は空気中にあっても測定できるが、ウイルスは測定できず危険ではないのですか？
- 質問 7 建物が壊れた場合、どのような行為をすれば人へ感染する可能性がありますか？
- 質問 8 平成 19 年度から市民公開セミナーや施設見学会を開催しているということですが、開催回数や参加人数の推移はどのようになっていますか？
- 質問 9 一番東側の施設の排気口（24 時間稼働）が住宅地の方向を向いており、不安だという声がありますが、安全なのでしょう？
- 質問 10 感染研に報道の人たちが集まったりして、状況を知りたい場合、どこに問い合わせればよいのですか？

- 質問 1 昭和 56 年に BSL4 施設が建設された当時、施設の内容について住民への説明がなかったのはなぜですか。これまで 30 年以上の間、どのような経過だったのでしょうか？
- ① 昭和 54 年 9 月に武蔵村山市に対して建設の説明を行った際に十分な説明がなされず、結果的に地元住民の方々に対して不安を与えてしまい、昭和 56 年 12 月に BSL4 実験開始延期要請が出されるにいたりしました。
 - ② これにより、昭和 57 年 3 月に BSL 4 施設の実験延期を決定いたしました。その後、同年 8 月に武蔵村山市による住民説明会が開催され、ここで所長以下の職員が出席し当該施設についての説明を行いました。
 - ③ 昭和 57 年 11 月には、地域住民の方々に対する BSL 4 施設の見学会を行っています。
 - ④ 昭和 58 年 5 月に地域住民からなる P4 実験室問題対策協議会に対して説明会を開催していません。

- ⑤ なお、その後は、武蔵村山市当局に必要な応じて資料提供等の説明を行ってきましたが、感染研（当時は予研）及び厚生労働省（当時は厚生省）も積極的に住民の皆さんに対してご理解を得る説明が出来たとは言い難く、このことについては猛省すべきところであると認識しています。
- ⑥ この認識の下で、今後は情報共有に努めてまいりたいと思います。

質問2 WHOの文書（1997年）では、BSL4施設は住宅地に隣接してはならないとされているのではないのですか？

- ① この文書は、病院内や研究所における検査室・実験室の設置に関するものです。その場合には、検査室・実験室は建物内では一般の人が出入りする区域から離れた場所に設置すべきであるとしています。
- ② WHOは2004年にも同様の文書を出しており、建物内での検査室・実験室に関することと明確に述べています。

“The relative location of the laboratory and its ancillary areas with respect to each other and to the buildings as a whole must be considered.

-Wherever possible laboratories should be sited away from patient, residential and public areas, although patients may have to attend and provide or deliver specimens” (WHO, 1997)

質問3 諸外国のBSL4施設で、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの拡散などの事故は発生したことはありますか？

- ① 諸外国のBSL4施設で実験動物が逃げ出したという報告はありません。
- ② ただし、実験従事者が針刺し等により感染した、あるいは感染が疑われた事例はあります。
- ◆ 1976年英国ポートンダウン研究所において、エボラウイルス感染モルモットの肝臓組織を誤って針刺しすることにより感染。回復している。
 - ◆ 1980年代ロシアにおいて、詳細は不明だが、マールブルグウイルスに感染し、1名死亡。
 - ◆ 2004年ロシアのBSL4施設でエボラウイルス感染モルモットからの採血時に針刺し事故により感染し死亡。
 - ◆ 2009年ドイツ（ハンブルグ）のBSL4施設でエボラウイルスの針刺し事故が報告されているが、感染したかは否かは不明。

質問4 国立感染症研究所では、過去、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの施設外への漏えい

などの事故が発生したことはありますか？

- ① これまで、実験動物の施設外への逃げ出しや、ウイルスの施設外への漏えいが起きたことはありません。
- ② また病原体に関わる実験中に起きた針刺しは、平成7年から26年の20年間に13件報告されましたが、実験者への感染は起きていません。
- ③ なお、戸山庁舎で実験中に季節性インフルエンザウイルスの培養液の飛沫が目に入り、実験者が結膜炎になったが抗体は上がらなかった例が1件あります。

質問5 遺伝子組換えなどにより、ウイルスが想像もできない危険なものに変異する可能性があるのではないですか？

- ① 遺伝子組換え実験は、様々な法律に基づいて規制されており、そもそもウイルスが想像もできないような危険なものに変異する可能性があるような実験を行うことはできません。
- ② 予想に反して病原性が高いウイルスができる可能性は完全には否定できませんが、そのような場合は、直ちに実験を止める義務があります。
- ③ 国立感染症研究所では、国民の健康の向上を目的として、遺伝子組換え実験を行っていますが、法律を遵守し、研究内容の透明化（開示）に努めます。

質問6 放射線は空気中にあっても測定できるが、ウイルスは測定できず危険ではないですか？

- ① 放射性同位元素の測定は、放射線にも種類があり、簡単に測定できるものとできないものがあり、測定できないものは、気がつかずに口から入って内部被曝する危険性があります。
- ② そもそも、前回のご質問でも回答いたしました様に、エボラウイルスは本来、空気中に漂っているわけではありませんので、空気中のウイルス量の測定に意味はありません。
- ③ なお、放射性同位元素には、自然界に長期間存在するものがあり、たとえばセシウム137は半分の量になるまでに約30年かかります。一方、ウイルスは超低温で凍結保存すれば安定ですが、熱、光、乾燥に弱く速やかに感染能力を失います。

質問7 建物が壊れた場合、どのような行為をすれば人へ感染する可能性がありますか？

- ① 前回は述べましたが、BSL4施設の建物が倒壊することによりウイルスが建物の外部に漏れ感染することはないと考えています。
- ② 仮に建物内部でウイルスが安全キャビネット外に出るようなことが起こったとしても、ウイルスは液体の中に存在しエアロゾル（飛沫核）では存在しないので、空気感染・飛沫感染は起こりません。
- ③ 仮にBSL4施設が倒壊したとして、それにより人が病原体に感染するのは、直後にその場所に人が行き、感染予防（ゴム手袋やゴーグル等の装着）なしで、病原体が含まれるサンプル等

に自ら直接触れる場合しかないと考えられます。

質問8 平成19年度から市民公開セミナーや施設見学会を開催しているということですが、開催回数や参加人数の推移はどのようになっていますか？

感染研村山庁舎では平成19年度から市民公開セミナーや施設見学会を開催し、地元との積極的な交流に務めています。

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計
感染研市民セミナー	開催回数	6	6	6	6	2	2	4	5	37
	参加人数	112	126	118	83	19	19	90	140	707
市立小中学校への協力	開催回数	3	0	0	0	0	0	0	1	4
感染研施設の公開(見学会)	開催回数	1	5	0	1	1	3	1	1	13

質問9 一番東側の施設の排気口(24時間稼働)が住宅地の方向を向いており、不安だという声がありますが、安全なのでしょうか？

- ① ご指摘の施設は、4号棟で主に実験動物を飼育している建物です。
- ② 東側(住宅側)に出ているダクト2台は、1階の機械室内に空気を送り込む吸気口となっており、排気しているものではありません。
- ③ また、吸気口側の音量を計測すると70dBとの測定値であるため、2台のファンを停止いたしました。
- ④ なお、将来的には建物の北側に吸気口を新たに設置する工事を予定しています。

質問10 感染研に報道の人たちが集まったりして、状況を知りたい場合、どこに問い合わせればよいですか？

- ① 報道関係者等がゲート前に集まっている等で不安に思われた際は、以下の窓口までご連絡ください。
- ② なお感染研からは、報道関係者の皆様に対して、周辺環境へのご配慮をいただくようお願いしています。

<連絡先>

国立感染症研究所総務部業務管理課

電話番号：042-561-0771

国立感染症研究所の役割と 高度封じ込め(BSL4)施設について



国立感染症研究所

所長 倉根一郎



国民を感染症から守る
仕事をしています



国立感染症研究所の主な仕事

1. 感染症情報の収集と分析
2. 検査と診断
3. 有効で安全なワクチンの確認
4. 研究開発
5. 国際協力など

1 情報収集と解析



全国の医療機関から患者さんの情報を収集します



情報を分析し、厚労省の対策に役立てます



情報を分かりやすく公表します



定期刊行物



ホームページ

<http://www.nih.go.jp/niid/index.html>

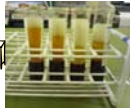


記者会見

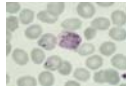
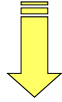


新聞発表

2 検査と診断



全国の医療機関、衛生研究所などから
感染症の患者さんの血液や便などの検体が必
要に応じて寄せられます



感染研は、最新の技術で迅速正確に検査診断し、
原因をつきとめて対策をしめします



患者さんの診断と治療、流行の防止に役立てま
す

3 ワクチンの国家検定

感染症の予防においてはワクチンが大きな役割を果たして
いる。

感染研では国内外のメーカーで製造され、日本国内で使
用されるすべてのワクチンの有効性、安全性を調べてい
ます。



国立感染症研究所の検査に合格したワクチンだけが国内で
使用されています

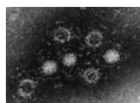


4 研究開発

新しい感染症や、大きな流行を防ぐためには、新たな技術の開発を常に行うことが必要になります



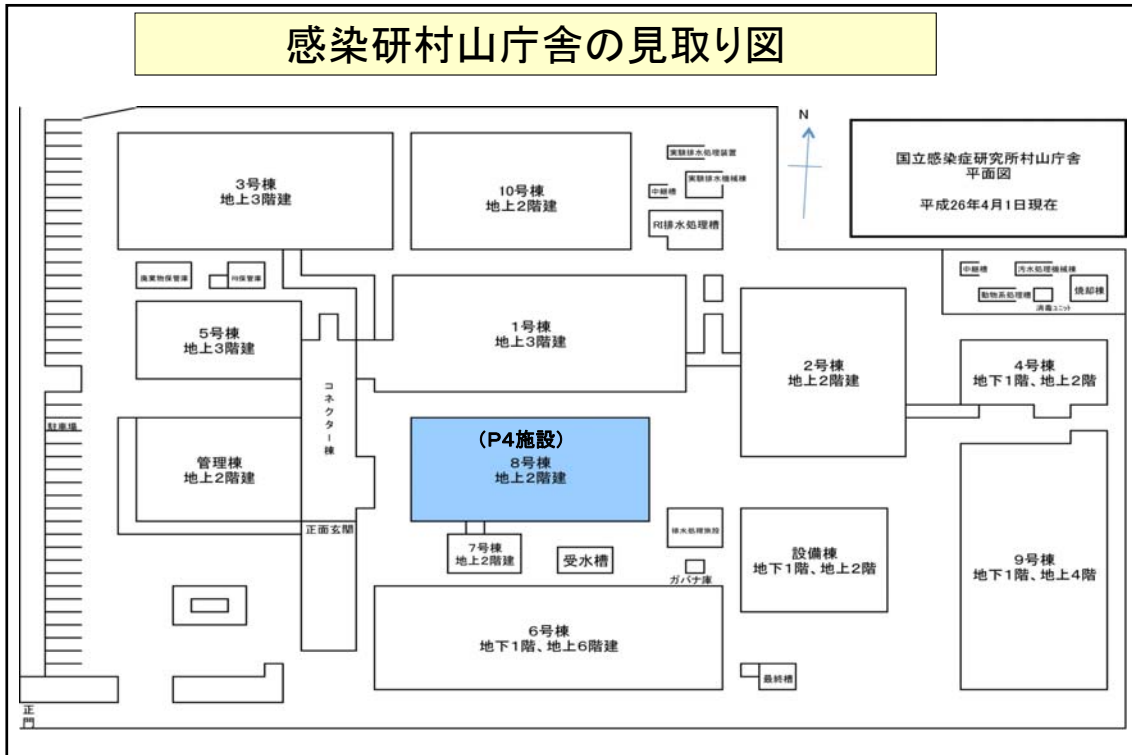
感染研では集められた情報やサンプルを元に、日本の中央研究機関として、国内外と連携し研究を進めます



研究で開発された技術が、一層すすんだ検査診断方法、ワクチンや治療薬の開発に役立てられます



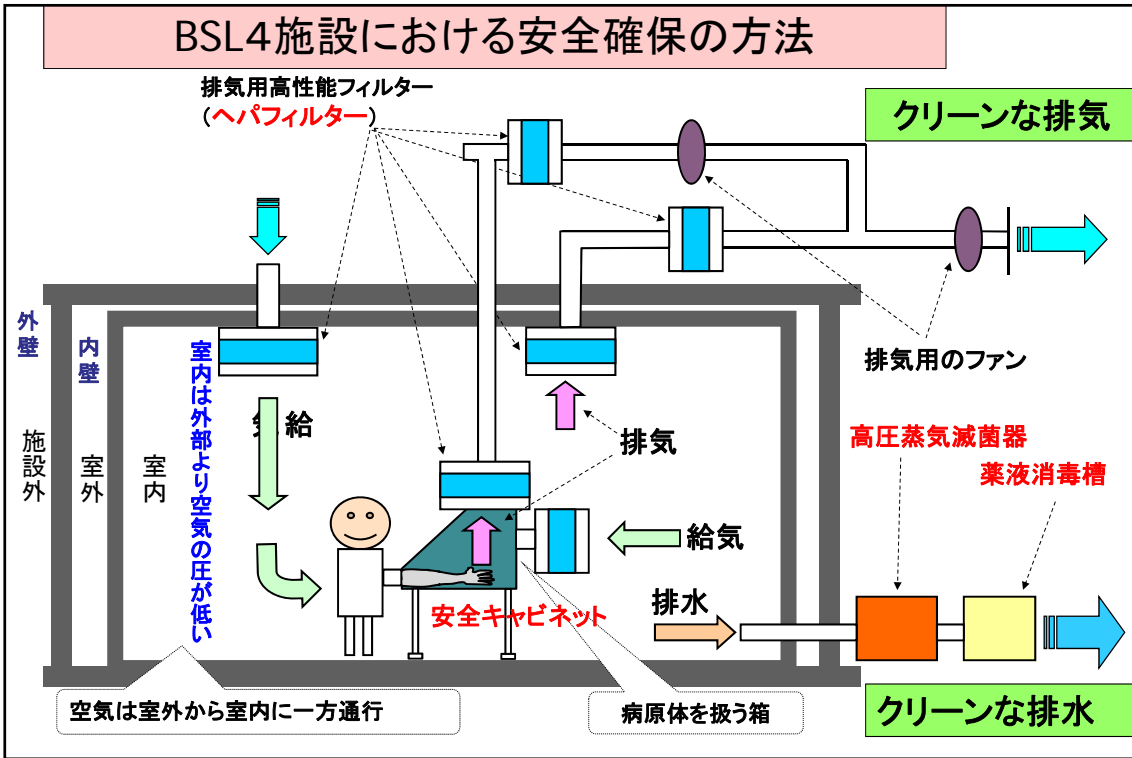
高度封じ込め(BSL4)施設
について

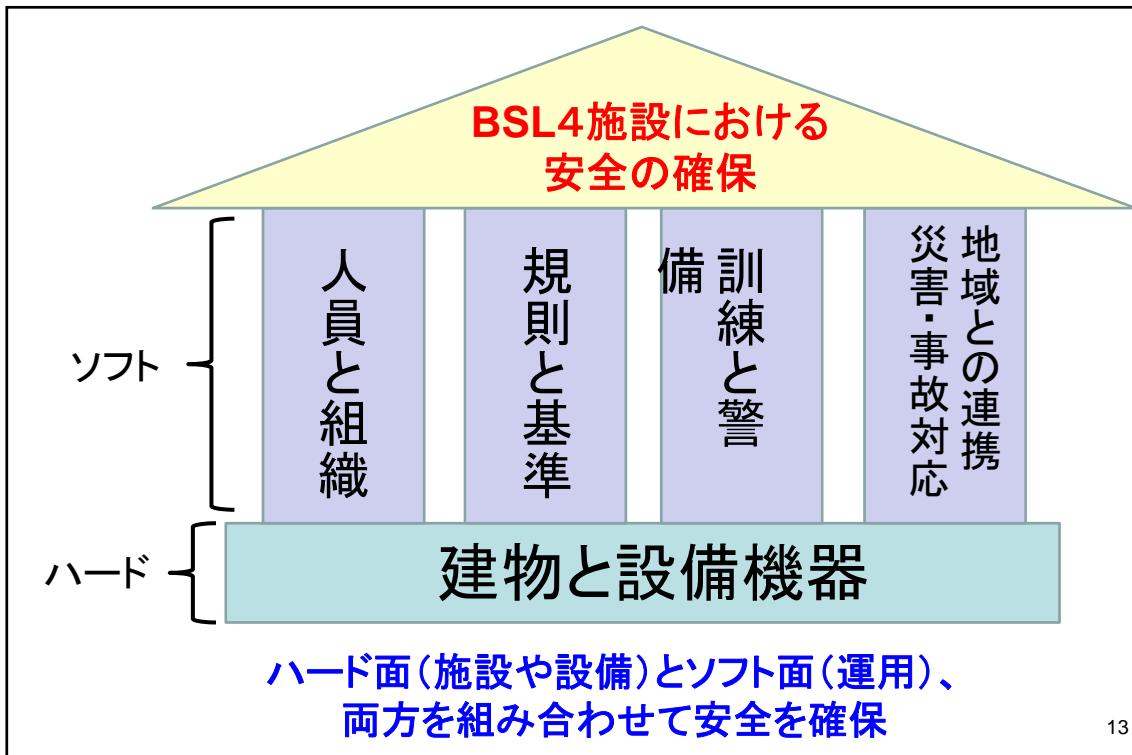


BSL4施設:何をする施設か？

1. エボラ出血熱などの患者の検査
2. エボラ出血熱などの患者の治療経過の
確認
3. ウイルスの解析と検査の改良
4. 治療や予防法の開発

これらはBSL4施設で行うことができます。





本日はおいでいただきありがとうございます。
ございます。施設をご覧いただき、
皆様のご意見、ご質問お聞かせい
ただければ幸いです。